

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3月 9日

事業所名 縁berry

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動を分けている。	
	2 職員の配置数は適切である	○		職員の立ち位置。	職員が少ない時には安全にすぐせる活動を行っている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		テプラなどを貼って、分かりやすく区分けしている。	部屋の段差は危険なのですべり止めをつけている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		清掃は毎日。 アルコールを塗布している。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		午前と午後で申し送りを行っている。続けていく。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者様の意見をききながら、良い面は引き続き、改善点は共有して今後につなげていけるようにする。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している			会社のホームページに結果を公表し、閲覧できるようになっている。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修にはなるべく参加するようにしている。	今後も全員が参加できるような機会を作っていきたい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者の方と面談を行っている。(定期的)	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		会社側として、マニュアル化していく必要があるのか。事業所独自のアセスメントツールを作成、活用していく方法もあると思う。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		保護者・相談員と会議を通して話し合い、支援内容を設定するようにしている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		子どもの様子を職員間で共有し、その子に合った支援を目指している	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		アイデアを出し合い、相談しながら行っている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		順番に決めている。	様々なアイデアを出し合い、様々な活動のプランを立てられるようにしている。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個別活動の終了後、集団活動を行っている。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日2回申し送りを行い、プリント等を配分している。	職員全体に同じ内容がしっかり伝わるようプリントという表面化をしている。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		大きな出来事は必ず、小さな出来事は翌日としている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日の送りと共に個別支援記録に記載している。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		問題のある子は、随時話し合いをしている。		

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3月 9日

事業所名 縁berry

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管が必ず参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		会議や電話等で連絡をしている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		該当児無し。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		必要な機関から連絡をもらえよう働きかけている。	関係機関とはすぐに連絡がとれるよう日頃から連携をとっていきようにしたい。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保育園なども含めた担当者会議を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		送迎時などに、共有を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			両センターの場所が分からないので、今後調べていく必要性を感じている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○			今後交流する機会を作っていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			今は参加できていない。今後調べていきたいと思う。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳を通して、日々連絡を取っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			専門性のあるペアレントトレーニングは行っていない為、今後力をつけていく必要がある。(研修など)
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時の説明と共に、随時変更がある時はプリントを配布している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		必ず、署名と捺印を頂きながら確認をしている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		すぐに対応をしている!	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		年3回、保護者会を開催し保護者間の共有を深めてもらっている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		すぐに対応をしている!	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、おたよりを発行し、支援活動を記載している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		キャビネットに鍵をかけ、不用意に持ち出しをしないようにしている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		連絡帳を活用するとともに送迎時に情報共有している。	

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3月 9日

事業所名 縁berry

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		現在は行えていない。 今後、展開出来るよう方法を考えていきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		防災、防犯訓練を行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		防災、防犯訓練を行っている。 備蓄品の点検を行っている	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		保護者様から聞き取りを行っている。(基本情報にも書いて頂いている。)	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		医師の指示書はもらっていない。 保護者の方よりアセスメントにて把握を行っている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ファイリングしていつでも確認できるようにしている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		積極的に研修に行かせていただいている。	虐待防止に対する知識を所内で高められるよう、内部研修も多く行いたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		安全面に配慮している。記録にも残し、確認できるようにしている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3月 9日

事業所名 縁berry

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動を分けている。	
	2 職員の配置数は適切である	○		職員の立ち位置。	職員が少ない時には安全にすぐせる活動を行っている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		テプラなどを貼って、分かりやすく区分けしている。	部屋の段差は危険なのですべり止めをつけている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		清掃は毎日。 アルコールを塗布している。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		午前と午後で申し送りを行っている。続けていく。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者様の意見をききながら、良い面は引き続き、改善点は共有して今後につなげていけるようにする。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している			会社のホームページに結果を公表し、閲覧できるようになっている。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修にはなるべく参加するようにしている。	今後も全員が参加できるような機会を作っていきたい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者の方と面談を行っている。(定期的)	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		会社側として、マニュアル化していく必要があるのか。事業所独自のアセスメントツールを作成、活用していく方法もあると思う。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		保護者・相談員と会議を通して話し合い、支援内容を設定するようにしている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		子どもの様子を職員間で共有し、その子に合った支援を目指している	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		アイデアを出し合い、相談しながら行っている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		順番に決めている。	様々なアイデアを出し合い、様々な活動のプランを立てられるようにしている。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個別活動の終了後、集団活動を行っている。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日2回申し送りを行い、プリント等を配分している。	職員全体に同じ内容がしっかり伝わるようプリントという表面化をしている。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		大きな出来事は必ず、小さな出来事は翌日としている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日の送りと共に個別支援記録に記載している。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		問題のある子は、随時話し合いをしている。		

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3月 9日

事業所名 縁berry

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管が必ず参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		会議や電話等で連絡をしている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		該当児無し。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		必要な機関から連絡をもらえるよう働きかけている。	関係機関とはすぐに連絡がとれるよう日頃から連携をとっていきようにしたい。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保育園なども含めた担当者会議を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		送迎時などに、共有を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			両センターの場所が分からないので、今後調べていく必要性を感じている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○			今後交流する機会を作っていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			今は参加できていない。今後調べていきたいと思う。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳を通して、日々連絡を取っている。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			専門性のあるペアレントトレーニングは行っていない為、今後力をつけていく必要がある。(研修など)	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時の説明と共に、随時変更がある時はプリントを配布している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			必ず、署名と捺印を頂きながら確認をしている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			すぐに対応をしている！
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			年3回、保護者会を開催し保護者間の共有を深めてもらっている。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			すぐに対応をしている！
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎月、おたよりを発行し、支援活動を記載している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			キャビネットに鍵をかけ、不用意に持ち出しをしないようにしている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			連絡帳を活用するとともに送迎時に情報共有している。

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3月 9日

事業所名 縁berry

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		現在は行えていない。 今後、展開出来るよう方法を考えていきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		防災、防犯訓練を行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		防災、防犯訓練を行っている。 備蓄品の点検を行っている	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		保護者様から聞き取りを行っている。(基本情報にも書いて頂いている。)	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		医師の指示書はもらっていない。 保護者の方よりアセスメントにて把握を行っている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ファイリングしていつでも確認できるようにしている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		積極的に研修に行かせていただいている。	虐待防止に対する知識を所内で高められるよう、内部研修も多く行いたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		安全面に配慮している。記録にも残し、確認できるようにしている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。